



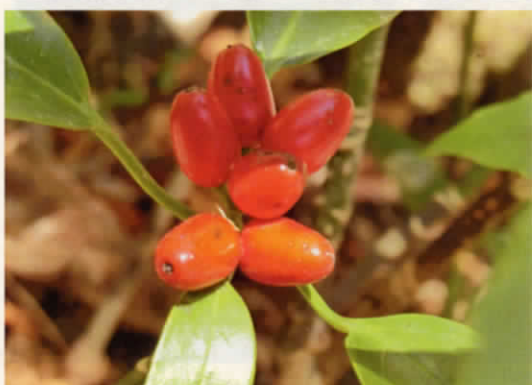
2019年
5月31日
発行

「高尾の森」通信



— 小下沢風景林の森づくり活動 —

会員数：188名
(2019.5.15 現在)



小下沢周辺の草木

北高尾の春の草木は色づき、あたかも私たちが歓迎しているようです。

小下沢・ザリクボ 沢の流れも清清しさを増して
絶好のシーズン到来です。

小下沢 NOTE 春

3 月定例作業



晴れ渡った空の下、朝礼です。



A 班、急斜面で奮闘中です。



機会班、出発前の安全確認実施中！



C 班、作業が終わり記念撮影？



B 班、今日の作業計画の確認中！

4 月定例作業



枝払いも丁寧に作業しています！



足場をよく確認して移動中です。



おーい！ロープ持ってきて！



板当の作業地は急斜面で上下確認が大切！

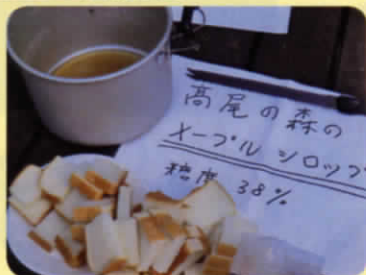




帰ってきたら「おいしいトン汁」が待っていました。



メイプル調査の副産物を賞味しました。



5月定例作業



朝の準備で大忙し!



作業後の有志での「とうふパーティー」



D班の精鋭4人組



初年度の看板をリニューアルして作業小屋へ設置しました。



終礼前の談笑も楽しいひと時です。



今日のキッチン班には「みそあん」の柏餅もありました。



間伐対象はまだまだ、あります!

もくじ

小下沢 NOTE	02
平成から令和へ	04
京王電鉄親子森林体験スクール	06
滋慶学園森林体験教室	07
ハチ対策講座に参加して	08
新入会員紹介	09
コニカミノルタさくらまつり	10
高尾の森と生き物たち	10
幹事会だより	11
事務局からのお知らせ	12

平成から 令和へ、

「高尾の森づくり」は続く

代表 吉川正幸

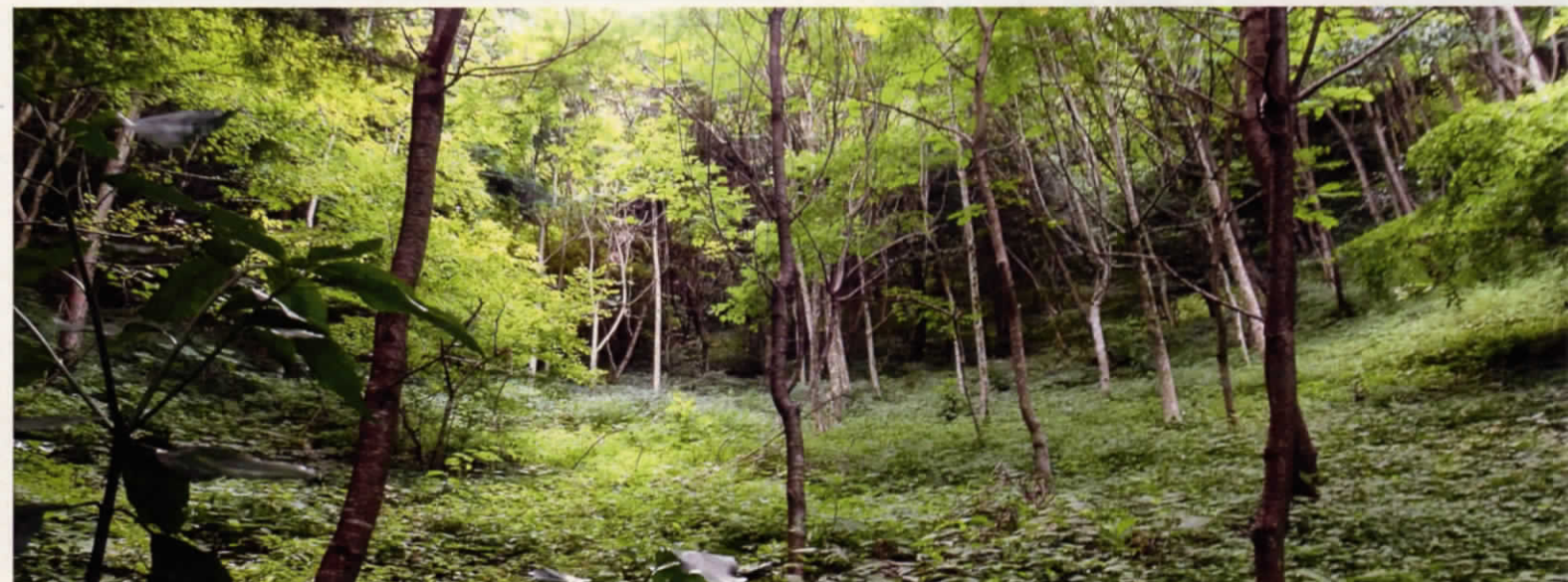
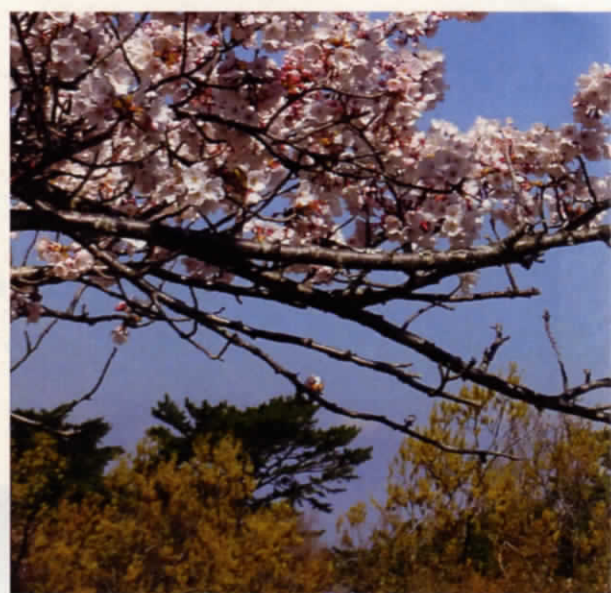
平成から令和の世に代わる4月から5月にかけて、様々な春の行事があり、私は毎週のように高尾の森に入りました。森の中で目を上に向けると、一齐に広葉樹の葉が開き、山桜が咲き、日々緑の色が増して行くのを見ることができます。特に、高尾の森づくりの会の植栽地の広葉樹は、北高尾の森の彩に鮮やかな緑を加えています。

新元号の語源となった万葉集が編まれた時代から、日本には新緑のわずかな色の違いを表す、若葉色、萌木色（もえぎいろ）、翠緑（すいりょく）、若草色など色々な言葉があります。日本人の持つ素晴らしい感受性を示す緑の呼び名です。正直なところ、杉と檜の花粉にかすむ私の目と頭では、これらの微妙な色彩の区別がつきません。しかし、森の広葉樹は、日々変化してゆき、また、同じ日でも葉の色は、樹種により微妙に変化していて、美しいとしか言いようのない彩のグラデーションを作り出しています。色の名で言い当てることはできなくとも、春の到来を、心から楽しむことができました。

「たづさへて登りゆきませ山はいま木木青葉してさやけくあらむ」（注）

この歌は、美智子上皇后が、1993年（平成5年）に「皇太子の結婚を祝ふ」兼題「青葉の山」として読まれたものです。当時の皇太子殿下が山に登ることが好きであることをご承知の上で、森の緑の明るく清々しい有様を、青葉という言葉を使い、ご成婚の喜びと同時に表

＊成長した広葉樹の2001年植栽地





2019年春
伊豆半島大仁高原からみた富士山

したものと思われます。緑の山に登る喜びを表したお歌を、我々も春の山に入る度に思い出してみたいものです。

天皇陛下と当会とは、わずかながらですが、ご縁があります。小下沢ベース小屋から、小下沢林道を10分ほど遡ると、東京原木協同組合の植栽地に「浩宮殿下御誕生 記念植林」の記念碑があります。確かなことではありませんが、皇太子時代の陛下が武蔵野御陵を訪問した際に、記念碑まで来られたという伝聞があります。

山好きの陛下は、皇太子時代に日本山岳会の会員となつてからは、ご公務がある場合を除いて、師走に開催される日本山岳会の年次晩餐会にご出席されています。「山の日」制定当時、山岳会の副会長であった私は、2016年末も陛下のご案内係を仰せつかりました。「山の日」のために作られた当会の展示写真の前で、陛下は「高尾の森づくりの会を存じています」と言われました。その時、恐れ多くて確認はできませんでしたが、すでに陛下は、小下沢ベース小屋の横を通り過ぎて記念碑まで来られたというのは本当かもしれません。

当会は、2001年の創設以来、広葉樹を植えて針葉樹との美しい混交林を作ろうという目標をもち、毎年春の植樹祭には、多数の会員、一般の方が参加して、杉檜の間に多数の広葉樹を植えてきました。その結果、19年を経た現在の植栽地には、着実に広葉樹が美しい新緑の森を形づくっています。残念なことに、昨年までの3年間は協定国有林の中に新たな植栽地がなく、植樹を行うことができませんでした。しかし、今年は、会員の皆様の協力によって、きわめて小規模ながら植樹祭を復活することができました。さらに今後、北高尾の森の中に、広葉樹の植樹を増やしてゆきたいと思います。

言うまでもなく、木を育て、森を作るのは長い年月がかかります。そのためには、私たちの活動を永く続ける必要があります。新年度は、当会の創立20周年に当たります。私たちが、微力ながら森づくりを続けたことで、北高尾の山に美しい彩の森が増えていることを、創設時からの先輩会員と一緒に喜びたいと思います。さらに当会の活動を次世代に引き継ぐために、20周年行事の機会を生かして、高尾の森の紹介と当会の活動の広報を行い、次に続く人を会に招きいれましょう。

高尾の森づくりの会の創設者たちの夢は、針葉樹だけの暗い森の中に、春には桜が咲き、秋には紅葉に彩られる、明るい広葉樹の林を築くことでありました。そして今でも私たちの夢として持ち続けたいと思います。そこへの道はまだ遠いのですが、会員の皆様と夢を追ってゆきたいと思います。

(注) 引用は平成17年、海竜社刊「歩み」皇后陛下お言葉集より

「親子森林体験スクール」始まる



子育て世帯に対して環境教育と自然豊かな高尾に来るきっかけづくりを目的に実施され、以来今年 19 回目となる掲題「親子森林体験スクール」が年 3 回シリーズの第 1 回目として 4/13(日) にスタートした。

好天に恵まれた当日、小下沢入り口の“梅林貯木場”に抽選で選ばれた 13 組 30 人の親子が「今日はどんな体験ができるのかな？」期待とやや不安そうな面持ちで 9:15 に集合した。15 分程のオリエンテーションでは先ず 3 色のバンダナが配られ A 班(青色)、B 班(桃色)、C 班(緑色)の班編成が行われ主催者挨拶、注意連絡事項、体操の後班単位に順次植栽地に向け出発した。林道傍らでは春を待ちかねていた何種類ものスマイレや多種多様な花たち、新緑の木々、鳥の囀りなど見聞き、各班リーダーの説明も聞きながらゆっくりと鑑賞した。

ここからはヘルメットを被り林道からやや急坂(3ノ沢)の作業道を上ると今日の植栽地に着いた。いよいよ植樹作業が始まる。用意されたヤマザクラ・ホオノキ・イタヤカエデ・コナラ・ヤマグリ 5 種類の苗木をスコップで穴掘り、植え付け、水遣り後木札に植樹者各自の名前を記入して「しっかり大きく育て！」と急斜面での作業は無事終了した。

東尾根の急坂を登ると見頃のヤマザクラが皆んなを迎えてくれた。展望を楽しみながら、おのおの「ゆっ〜くり昼食タイム」と記念撮影の後、(4ノ沢)を下降。再び小下

ニホンカモシカに
ビックリ!



沢林道に出ると又自然観察しながらベース小屋での次のステージへと向かった。

ベース小屋での講和、赤外線動画カメラの映像鑑賞(高尾の森と生き物たち)では特に夜の森で繰り広げられる「動物たちの生きざま」に多くの参加者が驚いたり感心したりの様子だった。近年ニホンカモシカも確認され然も年々出現頻度が増えているデータにビックリ! 続いて裏高尾ジオラマ、動物など剥製展示物解説を受講して第 1 回のスクールを 15:00 に終了した。

次回 5/12(日) の第 2 回目と 6/9(日) 第 3 回目が予定されている。

森林は海に繋がる大きな架け橋である事を忘れずに、自分たちが出来る事で守りたい。



滋慶学園

森林体験教室

大森 茂



森と海を繋ぐ13年続く普及活動

海洋専攻の新入学生が今年も梅林前に集まり森林体験教室が始まりました。学園で4月に行う環境授業(座学)と森林現場で4月、5月に行う体験実習からなります。学生の殆どは卒業後、海洋業界で働くことから、「森は海の恋人」と言われる所以を学ぶことが大切と学園と故河西代表が合意して2007年から続く森林の普及活動です。

出前環境授業が充実

新入学生43名2クラスに江戸川区西葛西のキャンパスで講義をしました。(4/17)松隈さんは、山の上流に森を作る運動や鉄分を含む森林土壌の養分が海に運ばれ海洋生物の食物連鎖により豊かな漁場を育むことを説明をしました。山崎さんは、「高尾の森に棲む動物たち」をトトロのBGM編集と調査結果で学生に判り易く説明しました。

何これ?で始まったが、

森では満足感・達成感で修了

裏高尾で体験実習を4/20に42名が修了、今後5/19に44名が体験する予定です。学生達の発言が感性豊かで素晴らしいので、以下多くを「引用」して報告をします。

●「何これ?、高い学費を払って海洋教育に入学したのに訳わかんない!」

●「高尾の森って何処? 朝5時起き! 森が海での食物連鎖/生態系へ効果が?」実は毎回、同じ感想で体験実習が始まるが、未だ入学して数日しか経たないが、「よし! 動け!」と自分を鼓舞し、仲間を励ます魅力的な学生です。



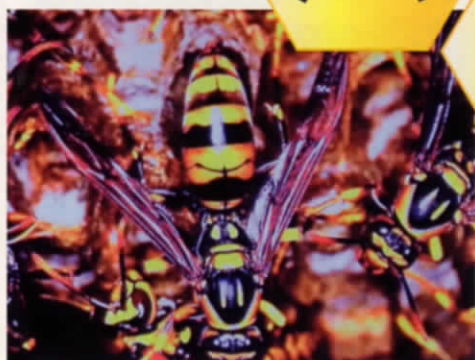
また、環境教育や支援スタッフの話と、森林で五感が感じる事が、「これ合ってるね!」、「森や海は自然そのものだね!」と化学反応が起きるようです。

間伐は楽しくいろいろ学んだ

間伐の手順説明を受けた後、受け口/追い口切り作業を進めロープを引くと「ドスン!」との音に、樵になった気分との歓声が上がりました。伐倒木の樹皮を剥がすと水を吸上げる様子に「森林が生きてる」と、学んだようです。間伐後、恒例の景信山登山では山頂からの高尾の森林の豊かさ、東京都心の眺望を見ながら、喜びと若さを「バックジャンプ」で表現していた。高尾駅8:00集合、解散17:30の満足感と疲れで、スケジュールを終了した。

最後に、体験レポートに書かれた嬉しい言葉

間伐作業(伐倒、枝切、玉切、皮むき)が出来、良い体験だったと感じたようだ。レポートには多くの「貴重な経験、迫力満点、達成感、森林の重要さetc」や、次が書いてあった。「森林は海に繋がる大きな架け橋である事を忘れずに、自分たちが出来る事で守りたい。」



ハチ

対策講座に参加して

小山圭司

「ハチ対策講座」(森の安全を考える会主催)が高尾の森づくりの会の作業小屋、及びベース周辺で開催され当会の8名(青木さん、鮫島さん、仁藤さん、松川さん、松隈さん、見留さん、山崎喜さん、小山)が受講した。講師の森中大晴さん(5月に新入会)はハチの研究を修士まで学んだ経験がありその生態に精通している。

講習内容はハチの基礎知識(種類、生活史)、刺されないための基礎知識、ハチに刺された時の応急手当法やハチ毒、アナフェラキシーショック、「エピペン」(アドレナリン自己注射キット)等の広範囲な座学と午後には小下沢ベース周辺での実地観察(どんな種類のハチがいるか、どのようなところに巣を作るのか等)を学び、体験しました。

特に「ハチ対策講座」の中で「刺されないためには」の項目を紹介します。

＜森中さん作成パンフレットより抜粋引用＞

1 巣をいたずらに刺激しない

ハチは振動にすごく敏感です。巣にちょっとした振動を与えると、スズメバチの場合は巣門からたくさんの働きバチが警戒のため外に出てきてしまいます。

2 ハチの巣から隔離しましょう

ハチの巣を見つけた場合は5m前後の範囲を進入禁止区域としてトラロープ等で囲み隔離しましょう。その際、ハチの巣があることを表示しておきます。

3 むやみに駆除しない

ハチの巣を見ると血が騒ぐ方が良くいます。作業路や林道の傍などはそのままでは作業に多大な支障が生じ、登山者など他の人が被害にあう可能性がある場合を除いては隔離

しそのままおきましょう。巣を駆除する場合は駆除するときはもちろん、駆除後の帰りバチ等の処理も必要であることを考えておいて下さい。

4 黒っぽい服を避ける

社会性ハチの一番の天敵は哺乳類です、クマ、きつねといった動物への攻撃目標として鼻や眼など体毛に覆われていない部分を狙ってきます。これらは黒色をしているため、ハチは黒色に敏感に反応するようになりました。黒いウエストポーチやベルト、皮手袋の縁が黒いものについても注意が必要です。

5 ひらひらとした服装は控える

Tシャツの裾を出しっぱなしにしていると下から飛び上がってきたハチが袋小路に嵌ってしまい刺されてしまうことがあります。裾は必ずズボンのなかに入れるようにしてズボンの裾もできるだけ絞るとカスバツツ等で覆う地下足袋の中に入れるなどを心掛けてください。

6 革製の手袋の着用

軍手でなく、できるだけ革製の手袋を着用しましょう。革製手袋は棘の刺傷防止にもなります。ハチ刺傷が多い手の甲の部分に防護材を入れた防護手袋もあります。

7 防護ネット

首から上の刺傷は大変つらいものがあります。このため首から上を防護するために防虫ネットをお勧めします。



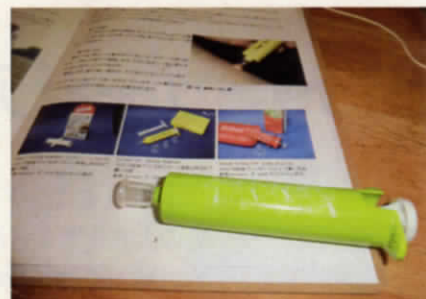
8 急な動きをしない

ハチの視力はそんなに良いとは言えません。ただし、モーションセンサーが発達していて動きの早いものに対して敏感に反応することができます。このため、ハチを振り払おうと手を激しく振るとその目標に向かって一気に襲いかかってきます。ハチを追いかつときはパニックにならようにし、軽く押さえるような要領で追いかけてください。

9 前日の深酒、寝不足を避ける

前日の飲酒によってハチにさされ易くなるということが言われています。科学的根拠はいまだ無いようですがアルコール分解時の代謝物が体表上ににじみ出て、それが警戒フェロモン物質に近い臭いを放っているのかもしれません。また、寝不足は万が一刺されてしまった場合の予後にも大きく影響しているようです。前夜の十分な睡眠適度な飲酒を心掛けてください。

受講中に作業小屋にオオスズメバチの女王蜂が営巣場所を探すため単独で侵入してきたハブニングもあり、参加者の熱意か？オオマルハナバチ、コマルハナバチ、キボシアシナガバチ等の6種類ものハチをベース小屋周辺で観察できたのも良い経験でした。また、ハチの毒吸出し用のボイジンリムーバの使い方や実習も役にたち、これからのシーズンは特にハチが多く注意が必要ですのでこの講習を実践で生かしたいと思いました。



は・じ・め・ま・し・て A 班の石橋英寿と申します。古希を過ぎた「高尾の森づくりの会」の新人です。今後ともよろしく願い申し上げます。

昨年の8月炎天下の中、体験入会し基礎的なことを学びました…しかし年齢的に覚えが悪く進歩しません。10月の定例作業に初参加し、その時の感想を述べさせていただきます。

朝ベースに集合しても右も左も分からず、「ぶらぶら〜キョロキョロ?」していたら突然、朝礼が…ひき続き準備体操が始まり…あわただしく出発！木下沢林道より急勾配の斜面を登り始めました。途中息が切れハーハーふうふう悪戦苦闘！体力不足…中程の林道に出たときはホッ

会員紹介 14

こんな人😊です…石橋英寿さん

「器用な手先と
発想・創作
アイデアで貢献」



トしました…。前が開けて明るく木陰より八王子市街や都心のビルが見えて感動・絶景!…ひと息ついて現場に到着、2班に分かれて伐採作業開始、思ったより斜面がきつく足を踏ん張るがスベルスベル、ふだんあまり使わない手・足の筋肉を全開、先輩たちがテキパキと段取り良

く作業をこなす。気付くと昼飯の時間…休憩して午後の作業をモタモタしていたら帰る時間だ…帰りの下り坂もチョットつらい足の筋肉がブルブルやっとなベースにたどり着き定例作業終了…?!

私はグラフィックデザインの仕事をしてきました。当時はまだアナログの世界でした。鉛筆・筆・コンパス等を駆使してポスター、リーフレット、雑誌、新聞広告、イラスト、レタリングなどの制作に従事…約25年前頃からPCで誰でも簡単にデザインが出来るようになりました。また「高尾の森づくりの会」にも通じるところがあるかと思いますので手先を器用に使い、発想・創作アイデアでユニークな形・色・物を作り上げてみたいものです。

「コニカミノルタさくらまつり」に出展

小木曾裕子



4月6日、好天にも恵まれ満開の桜の中開催された「コニカミノルタさくらまつり」に出展しました。このイベントは今年で53回目を迎え、地元の東京都日野市では春の風物詩として定着していますが、今まで高尾の森づくりの会では植樹祭や育樹祭と重なったため、会としては初参加です。

今年は3月21日に東京の桜が開花したものの寒さの戻りが長く、当日はさくらまつりに合わせたように満開を迎え4200人もの地域住民の方々が集いました。ステージでは、力強い和太鼓の演奏、賑やかな社員バンドの演奏、若さ溢れる大学生のボディビルポージングショー等で盛り上がっていました。高尾の森づくりの会のブー



スでは、ものづくり班を中心に約10名の会員が集まり、木工品の販売、横川コレクションの展示、竹ぼっくり作りに加え、積み木とパズルコーナーを設けました。昨年からイベント会場で人気上昇中の積み木とパズルコーナーでは積み木の種類を増やし、更にスペースを広げてお子様たちがゆっくり遊べるようにしました。木工品では、ヒノキのまな板をはじめパズルや竹の一輪挿し等が良く売れ、お子様からはヒノキのペン立ての穴が「猫の肉球みたいで可愛い!」と思わぬ反響がありました。横川コレクションの蛇の抜け殻や巨大なキロスズメバチの巣には老若男女キャラクター言いながらも恐々触って、触っているところをスマホで撮影して楽しんでいました。

11時から15時という限られた時間でしたが、高尾にも近い日野市の皆さんに高尾の森づくりの会の魅力を十二分にPRできたと思います。この中から一人でも多くの方が体験参加されることを願って、来年も出展したいと思います。

599ミュージアム「高尾の森と生き物たち」

安藤幸彦



599ミュージアムの広い空間が多くの人でうずまった。横川コレクションの種々の剥製や、毛皮にジッと見入り、いろいろな質問を投げかける。横川さんはそれに答えると同時にそれに関する他の情報も提供してあげ、質問者も満足していました。

パズルに夢中になっている大人達、子ども達、首を傾げたり、パズルの一片をあちこちに動かしたり、途中までやったがダメで最初からやり直したりと工夫している。時々「出来た!」と言って喜ぶ子どもがいたり覗き込んでいた親達が「良く出来たわな」と褒める言葉も聞こえてくる。もう少し小さな子ども達は、積み木遊びで高く積んだと喜んでいる。親御さん達も、積み木なら安心とパネルを見たり、他の展示物を見て楽しんでいる。

子ども達は、また知識欲も旺盛で、高尾の森の動物の様子をみようとしてテレビの前に集まって山崎さんの詳しい



解説を聴きながら、目を凝らして見ている。

鹿・タヌキ・テン・兎・猿・猪・鳥達、そして熊もと、沢山の動物が高尾の山に住み昼・夜どんな生活をしているかを興味深げにそして考えながら見入っている。

入場者数は1,350人(一日平均150人)と沢山の人が私達「高尾の森展示会」を見に来てくれました。日曜日には250人を超える入場者で会場は大賑わい、サポートする私達も嬉しいながら忙しい日々でした。来年もまた皆様に喜ばれる企画をの思いを馳せながら。

2018年度 幹事会だより 3月～4月(抜粋)

当面の重要なテーマ★今6月15日(土)総会実施:会員間の関連な質疑、議論を期待

3月度 幹事会

日時/3月4日(月)
18時30分～21時00分

会場/立川市女性活用センター

参加者/幹事10名、監査役2名

オブザーバ1名

議長/吉川代表 書記/仁藤

審議 事項

1. 平成30年度活動実績書作成、署報告(⇒3/18提出済)
2. 総会についての取り纏め概要(案)説明と協力依頼⇒了承
3. 都有林プロジェクト⇒今後、会としての位置づけを明確化要望
4. 来期に向けての作業班の編成⇒検討進める。

報告 事項

1. 安全管理研修について報告(4/7計画)⇒了承
2. 植樹祭開催⇒新会員勧誘を目的に実施について了承
3. コニカミノルタの桜まつりの紹介⇒木工班に支援を依頼
4. 599ミュージアム実施の支援や一般の方の参加を広報
5. 林道通行証は1年毎に更新要⇒個人管理徹底の事

4月度 幹事会

日時/4月8日(月)
18時30分～20時30分

会場/立川市女性活用センター

参加者/幹事9名、監査役2名

オブザーバ1名

議長/吉川代表 書記/早川

審議 事項

1. 次年度計画案と説明で森林署訪問
・2018年度より植樹と間伐ね面積増⇒了承(補足:報告済)
・新任森林官への挨拶を2019年度に予定⇒了解
2. 平成30年度の決算報告(案)説明⇒了承、継続審議
3. 来期の作業班編成の検討仮案を説明
⇒継続審議(6班体制から5班体制など班リーダーと検討へ)
4. 幹事追加の提案⇒了承、幹事枠内で推薦検討、総会で承認

報告 事項

1. 安全管理研修開催予定⇒実施済(4/7、17名参加)
2. ハチ対策講座案内(他団体開催)⇒実施済(5/5、8名参加)
3. 次年度予算案(HP更新、トイレ改修、新提案)⇒了承、継続
4. 各種実施報告(下記)
・植樹祭:4/20開催、ザリクボ右岸で約20名が参加
・599ミュージアム「高尾の森と生き物たち」展
3/23～31実施、1350名の入場者
・コニカミノルタ「さくらまつり」(4/6実施)、木工班10名参加
5. 都有林Proj状況⇒4ノ沢上の列状間伐跡地で5100㎡整備予定
6. 親子スクール/学生体験教室(4～6月で6回実施)サポート希望
7. 通行許可証は3/26返却(一部紛失有)、新規許可証は4月発行
8. 総会時の講演会の講演者は東農大梶光一先生を予定⇒了承

●ひとこと●

2019年度は、国有林は2021年開始の第5次5ヵ年計画提案、都有林PJの取組検討及び当会創設20周年節目の年になります。NPOとして会員の総意をまとめましょう。

4月度 幹事会

日時/4月22日(月)
8時30分～21時00分

会場/立川市女性活用センター

参加者/幹事7名、監査役2名

オブザーバ1名

議長/吉川代表 書記/湯川

※臨時幹事会として開催

5/6を含め総会(6/15)対応で開催

審議 事項

1. 2019年度総会スケジュール状況⇒了承
2. 総会議案書の読み合せ確認⇒未提出分は5/6迄に提出
・提出議案書の読合せ結果⇒指摘有りは次回幹事会迄に修正
3. 2018年度決算(既に会計監査役の監査完了)
・貸借対照表、活動計算書、財産目録を提示⇒原案通りで了承
4. 2019年度予算(試案)審議
・トイレ改修など新規申請項目⇒継続審議(5/6幹事会で確認)

5月度 幹事会

日時/5月6日(月)
13時00分～16時30分

会場/立川市女性活用センター

参加者/幹事10名、監査役2名

オブザーバ2名

議長/吉川代表 書記/大森

審議 事項

1. 6/15(土)総会準備(決算/予算、活動報告、次期活動骨子)
⇒役員追加選任、2019年事業計画の将来方向性記載及び前回指摘事項の文書再確認、5/13(月)確定へ。(了承)

報告 事項

1. 植樹祭、親子スクール/森林体験教室
⇒体制/役割分担など課題有、会の取組みを議論提起(今後)
2. 会員の保険加入状況報告⇒加入意志確認



主な作業・行事記録

3/9	定例作業	78名
3/22～31	599 ミュージアム「高尾の森と動物たち」 展示会	延べ52名
4/6	コニカ桜まつり	10名
4/7	安全管理研修会	14名
4/13	定例作業	68名
4/14	親子森林体験スクール1	22名（参加者32名）
4/17	慈恵学園出前授業	3名（参加者86名）
4/20	慈恵学園森林体験教室1	16名（参加者42名）
4/20	植樹祭(春のイベント)	16名（参加者24名）
4/28	都有林PJ	14名
5/11	定例作業	73名
5/11～12	みどりにふれあうフェスティバル	延べ25名
5/12	親子森林体験スクール2	15名（参加者28名）
5/18	慈恵学園森林体験教室2	21名（参加者44名）
5/24～26	三宅島PJ	
5/26	都有林PJ	

今後のスケジュール（予定）

6/1	刈払機講習会
6/1	環境フェスティバル(八王子)
6/8	定例作業
6/9	親子森林体験スクール3
6/15	総会開催
6/23	都有林PJ
6/27～29	気仙沼視察会
7/13	定例作業
7/27～28	清新第一小父子キャンプ
7/28	都有林PJ
7/28	(仮)女性のためのチェーンソー研修会
8/10	定例作業
8/25	都有林PJ
8/31～9/1	チェーンソー特別講習会

会員動向（一部ご連絡が遅くなった方がおります）

退会 ご苦労様でした！

飯田晴康さん 今藤洋海さん 荒川 和さん

渡邊正子さん 落合一夫さん

小亀真知子さん 那須信彦さん

入会 ようこそ！！

川村善久さん（2月）

森中大晴さん 鈴木泰史さん（4月）

総会案内

日時●6月15日（土）13:30より（12:30開場）

会場●富士電機能力開発センター

（日野市富士町1、JR 豊田駅徒歩5分）

スケジュール

●13:30～14:45

特別講演「自然保護区のシカ対策」

東京農工大学名誉教授 梶光一先生

●15:00～16:00 2018年度 総会

●17:00～18:00 懇親会（会費 1,000円）

※ 欠席される方は必ず、書面による議決権行使をするか、委任状を提出してください。なお、総会議案書／総会報告については6月初旬までに各会員に送付します。

ものづくり・小屋管理班

（安藤リーダー）

毎週
木曜日第三
土曜日

哺乳動物生態調査班

（山崎勇リーダー）

毎週
木曜日

植物生態調査班

（千谷リーダー）

第一
水曜日

編集後記



風光る小下沢ベースもすぐにシャツ一枚で過ごす季節となると思いますが年間で一番気持ちが良い、清々しい季節です。杉の芽もあちこちで青々しく育っています。会に興味を持ってくれる方や新しい仲間もふえて来ており、これからが楽しみになってきています。（小山圭司）

